

# 2013特別見学ツアー報告書

## [吉備津神社/岡山市]

前方は吉備津神社の特徴である比翼入母屋造の屋根



アップで見る



駐車場の近くには犬養毅の銅像も立っていた





さて、ここから境内に入っていく



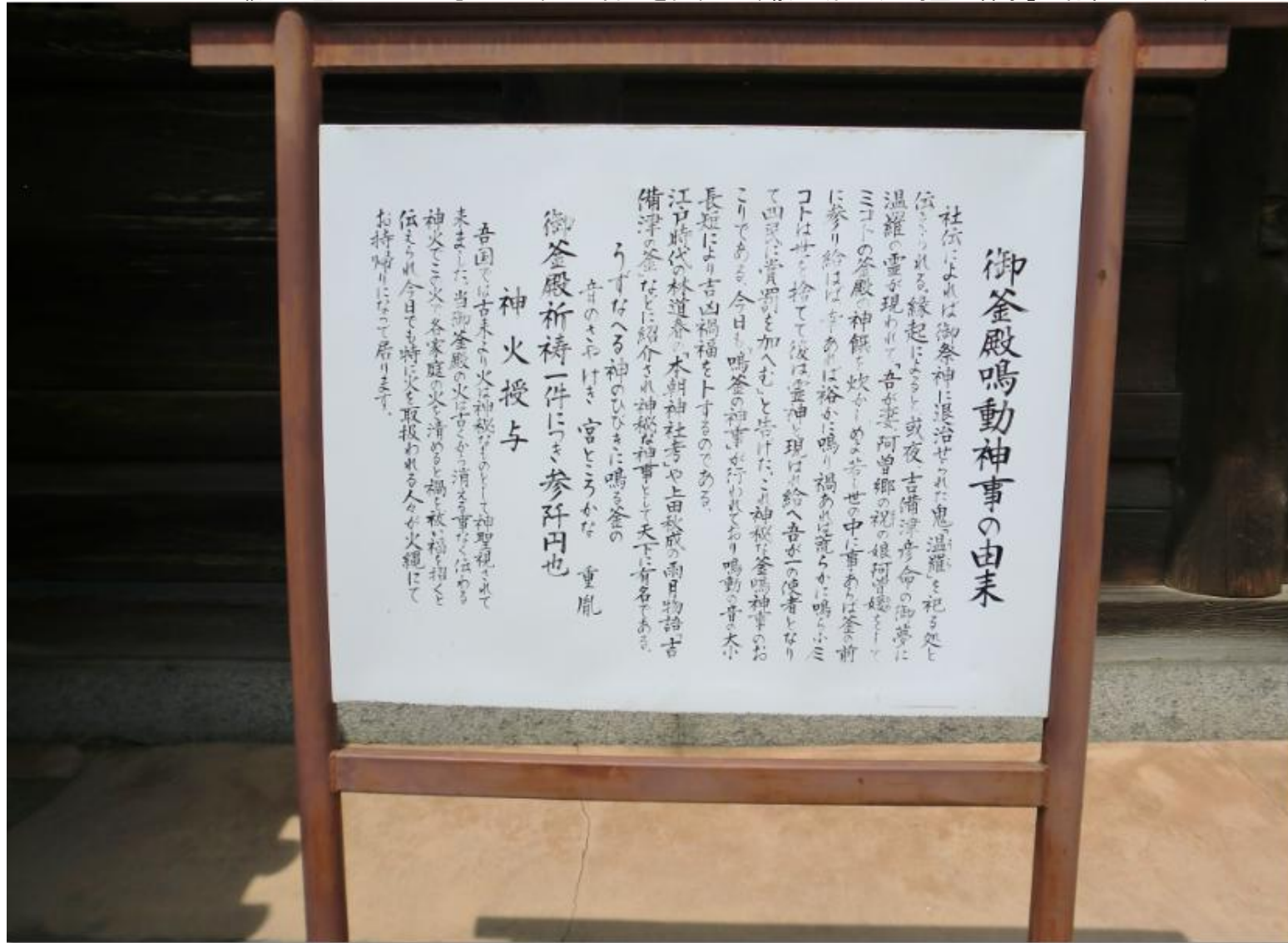


大正時代  
の  
神事  
の  
様子  
を  
写  
真  
で  
紹  
介  
し  
て  
い  
ま  
す  
。

**時登神事のご案内**

- 神事開始は5月15日午後、又は  
本館開館までお申し込みください。
- 神事参加は5歳以上  
で、年長2歳以上です。  
小学生以上は2名以上です。
- 開催日時  
五月 十五日 第二回  
十二月 二十七日 第三回  
※ 都合により変更される  
可能性があります。

カマドに載せた釜がブーンと唸るかどうかで吉凶を占うという儀式(占い)「鳴釜の神事」が行われるという



### 御釜殿鳴動神事の由来

社伝によれば御祭神に退治せられた鬼、温羅を祀る処に伝へられる縁起によると、或夜古備津彦命の御夢に温羅の霊が現われて、吾が妻阿曾姫の祝の娘阿曾姫とミコトの釜殿の神饌を炊かぬと云ふ世の中に事あらば釜の前に参り給はば吾が裕かに鳴り禍あらざらんかに鳴らふコトは世を捨てて汝は靈神と現はれ給へ吾が一の使者となりて四民に賞罰を加へむと告げた、此神祕な釜鳴神事のおこりである。今日も、鳴釜の神事が行われ、鳴動の音、木小長短により吉凶禍福を卜するのである。

江戸時代の林道春の木朝神社考や上田秋成の雨月物語古備津の釜などに紹介され神祕な神事として天下に有名である。

うすはへる神のひびきに鳴る釜の  
音のまねけき 宮とこうかな 重胤

御釜殿祈禱一件につき参拜円也  
神火授与

吾国では古来より火は神祕なものでして神聖視されて来ましたが、当御釜殿の火は古くから清き事なく伝わり神火でこの火が各家庭の火を清めると禍と穢し福と招くと伝えられ今日でも特に火を取扱われる人が火繩にてお持帰りになつて居ります。

ここが御釜殿/この中で儀式が行われるようだ





廻廊



ここから正面の南随神門そしてその向こうの本殿・拝殿へと進む



廻廊が続く



鳥居がある



その奥には末社「えびす宮」



ここが南随神門



振り返って見る

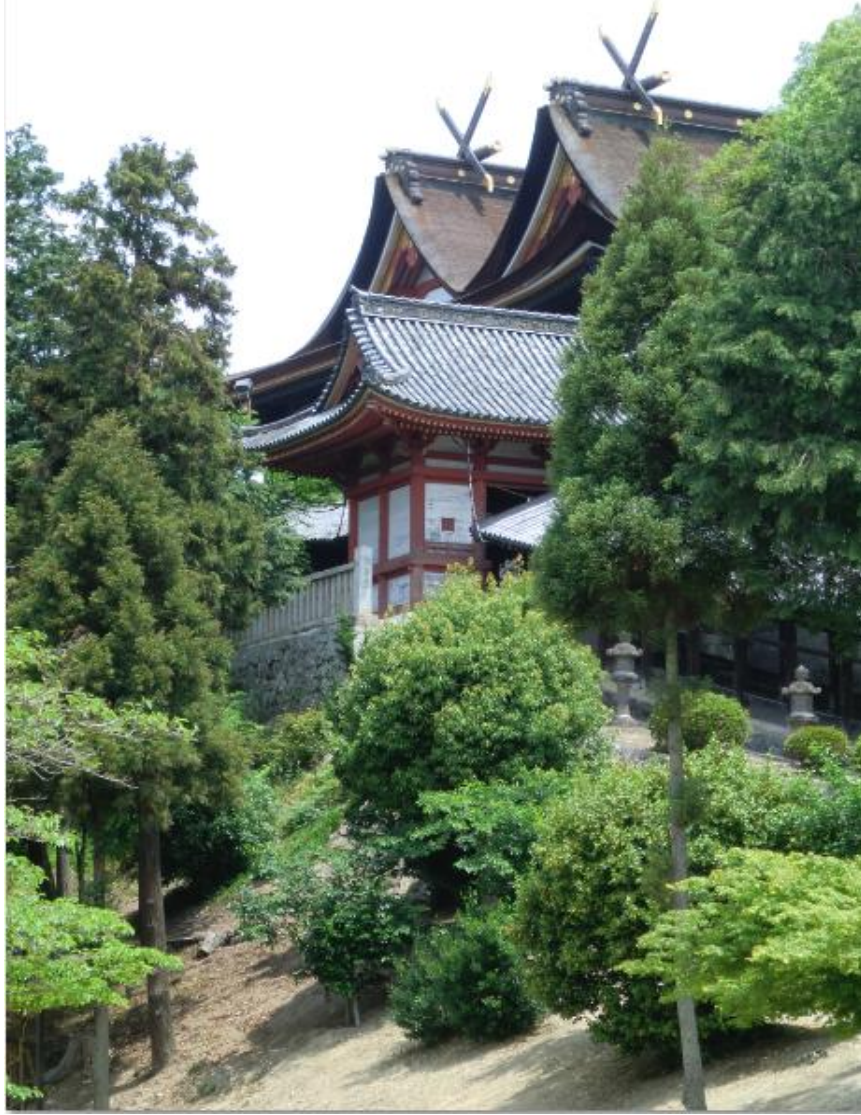


外側から見るとこんな感じ






手前が南随神門/その奥が本殿・拝殿の屋根



本殿・拝殿側から南随神門(重要文化財/室町時代再建)の屋根を見る



## 境内の見どころ



<p><b>大蔵</b> (国指定重要文化財) 金沢市街の中心</p> <p><b>北越神門</b> (国指定重要文化財) 幕府の城下町を象徴する建造物</p> <p><b>三門三堂</b> 徳川家康・家康聖母の神様 大蔵門、三門三堂・三門三堂</p> <p><b>御金蔵</b> (国指定重要文化財) 徳川家康の御金蔵</p> <p><b>多宝寺</b> 宗廟聖域の神様</p> <p><b>高島神社</b> 徳川家康 徳川家康の御金蔵</p> <p><b>三門三堂</b> 徳川家康の御金蔵</p> <p><b>三門三堂</b> 徳川家康の御金蔵</p> <p><b>三門三堂</b> 徳川家康の御金蔵</p>	<p><b>本殿・拝殿</b> (国指定重要文化財) 安永2年「北越へ参詣」の記録 に記述が記されている</p> <p><b>北越神門</b> (国指定重要文化財)</p> <p><b>一書社</b> 徳川家康の御金蔵 徳川家康の御金蔵</p> <p><b>金蔵所</b> 徳川家康の御金蔵 徳川家康の御金蔵</p> <p><b>徳川神社</b> 徳川家康の御金蔵 徳川家康の御金蔵</p> <p><b>三門三堂</b> 徳川家康の御金蔵 徳川家康の御金蔵</p> <p><b>三門三堂</b> 徳川家康の御金蔵 徳川家康の御金蔵</p> <p><b>三門三堂</b> 徳川家康の御金蔵 徳川家康の御金蔵</p>
---	--

### 寺社 御堂内

北越神門 徳川家康の御金蔵

三門三堂 徳川家康の御金蔵

徳川神社 徳川家康の御金蔵

---

### 境内の文化財と撰木社

北越神門 徳川家康の御金蔵

三門三堂 徳川家康の御金蔵

徳川神社 徳川家康の御金蔵

撰木社 徳川家康の御金蔵

徳川神社 徳川家康の御金蔵

撰木社 徳川家康の御金蔵



ここを潜るとフラットな境内がある/右手は拝殿/左手は授与所



拝殿



拝殿右側を見る/奥は本殿



拝殿左側を見る/奥は本殿



本殿・拝殿(右手)/国宝/室町時代





屋根の形式は入母屋造を二つ並べた比翼入母屋造と呼ばれる珍しいもので「吉備津造」ともいわれる



屋根は檜皮葺/高欄付回縁で横羽目板壁、盲連子窓、妻飾りは虹梁大瓶束



妻飾りは虹梁大瓶束



周囲を高欄付きの縁が回る





本殿は珍しい北向き





本殿背面





鯉木はそれぞれの千木に付くだけ





本殿下の湿気を防ぐため漆喰で固めた亀腹は最大2mもある



アップで見る



廻廊側から見る







軒は深い一軒 / 横羽目板壁、盲連子窓





組物は大仏様二手先







右手は拝殿/三方裳階付/吹き抜けとなっている



国指定美術品の銅鐘



こんな模型も置いてあった



吉備津のこまい

祈祷受付



祈祷殿





一重社







参考ホームページ

<http://kibituiinia.com/>

[http://www.sukima.com/14\\_sanyou01\\_03/09kibitsu\\_.html](http://www.sukima.com/14_sanyou01_03/09kibitsu_.html)

<http://www2a.biglobe.ne.jp/%257Emarusan/phkibituijiniya11.html>

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teirvu/Oy01.html>

